

◇11月の代禱・信施奉献先

▽済州(チェジュ)教会・西帰浦(ソギポ)教会の働きのため▽障害者週間のため▽東京子ども子育て応援団▽アジア学院の働きのため▽人権活動を支える主日(27日)

◇第141(定期)教区会報告

11月19日(土) 聖アンデレ主教座聖堂にて第141(定期)教区会が13時から17時まで開かれ、以下の3議案とも賛成多数で可決された。

第1号議案 「北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会」規則を一部変更する件

第2号議案 2023年度教区収支予算案承認の件

第3号議案 総主事任命承認の件

◇女性に対する暴力の根絶をもとめて祈る

日時:11月27日(日)17時～

司式:高橋 宏幸主教(東京教区)

大岡 左代子司祭(京都教区)

説教:後藤 香織司祭(中部教区)

礼拝は東京教区聖アンデレ主教座聖堂のホームページから録画配信されます。

▽東京聖三一教会 第27回ランチタイムコンサート「平和への祈り」

日時:12月2日(金)12時半～(12時開場)

場所:東京聖三一教会聖堂 入場無料

演奏:チェロ 黒川正三 ピアノ/オルガン 黒川文子

※事前予約制(先着60名)

以下にご連絡ください。ltc_trinity@ymail.ne.jp / 090-4079-2369

詳細は東京教区のホームページをご覧ください。

▽障関連 クリスマスの集い(会場とZoom)

日時:12月3日(土)13:30～15:00

場所:清瀬聖母教会(定員20名)

Zoom(定員無制限)に申し込んでください。

申し込み・問い合わせ e-mail:byukai316@gmail.com FAX:03-6205-5531(鵜飼良機)

申込締切:11月30日(水)

ZoomのURLは12月2日(金) e-mailでお送

「あなたの未来には希望がある」—神の愛がわたしたちのうちに

第35回教会音楽祭はYouTubeで
10月22日(土)14時 配信開始!

「第35回教会音楽祭」ユーチューブチャンネルにて予告編公開中です。ぜひ、チャンネル登録してごらんください。



【参加教派】

カトリック教会、カンバーランド長老キリスト教会、救世軍、日本聖公会、日本キリスト改革派教会(有志)、日本長老教会(有志)、日本バプテスト連盟、日本ホーリネス教団(有志)、日本福音ルーテル教会

今週・来週の予定

11月27日～12月10日

27(日) 降臨節第1主日

環状教会グループ協議会(立教チャペル)

世界AIDS・DAY礼拝(神田)

女性に対する暴力の根絶を求めて祈る

(録画配信)

29(火) 信仰と生活委員会(Web)

30(水) 北関東・東京宣教協働特別委員会
広報小委員会(Web)

12月

1(木) 聖職養成委員会(Web)

2(金) 資料保全委員会

4(日) 降臨節第2主日

5(月) 礼拝音楽委員会(Web)

8(木) 常置委員会(Web)

10(土) 財政委員会(Web)

りします。

主催：「障がい者」関連活動連絡会

<https://www.nskk.org/tokyo/skren/index.html>

▽立教大学キリスト教学会 秋の講演会

「日本聖公会における女性の聖職按手の課題」

日時：12月3日（土）14：00～15：30

場所：池袋キャンパス 14号館 D301 教室

講師：笹森田鶴氏（北海道教区主教）

※会場参加は申込不要。オンライン参加は11月25日（金）までに以下から要申込。https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScJRhkVYdXNHavvbQWo2bUy3Rx-2Q72q8aAXGxdHJglOm-h5Q/viewform?usp=sf_link

立教大学配布チラシ https://www.rikkyo.ac.jp/events/2022/12/mknpps0000022abr-att/poster_221203.pdf

【新型コロナウイルス感染症患者のため・医療看護に携わっている方々のため】

世の救い主よ、主は十字架の苦しみによってわたしたちを贖われました。どうか、わたしたち、ことにこの度の新型コロナウイルス感染症の苦しみ、不安の内にある人々を救い、癒しのみ手を差し伸べてください。また、医療と看護に携わる人びとの働きを助け導き、み力をもってその人びとを守り、励ましてください。主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

【新型コロナウイルス感染症によって亡くなら

れた方々のため】

永遠にいます全能の神よ、新型コロナウイルス感染症によって尊い命を失った方々の魂をすべて の重荷から解放し、主の聖徒とともに永遠のみ国で安らかに憩わせてください。また、悲しみの中にある方々に主の慰めが与えられますように、命の贖い主であられる主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

主よ、世を去った人びとの魂が、主の憐れみによって安らかに憩うことができますように

アーメン

【教区事務所開所時間】

開所日：月曜～金曜（休日を除く）

開所時間：10時～17時半

皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。 東京教区事務所

教区トピックス

☆じんけん瓦版 第79号 発行

東京教区ホームページにも掲載されています。

<https://www.nskk.org/tokyo/2022/11/13/8760>

☆み言葉と歩む 降臨節から降誕節 2022年～2023年

東京教区ホームページにも掲載されています。

<https://www.nskk.org/tokyo>

東京教区 第141（定期）教区会 開会演説

2022年11月19日（土）

主教 フランシスコ・ザビエル 高橋宏幸

1 ーはじめにー

この2年間、コロナウイルスの感染状況によりオンラインでの教区会開催を余儀なくされてきましたが、この度は感染予防に努めながら一堂に会しての開催となりましたこと、また、ご参集戴きましたことを感謝申し上げます。議員の皆さまはじめ、書記局、事務所、会場を準備くださった教会の方がたに、この場を借りまして深く感謝と御礼を申し上げます。

教区会は、「神の民の会議」であることを心に留め、大切にしたいと思います。

この度は、2023年度の活動計画、予算が主たる議案となりますが、その他にも重要な議案が出されておりますので審議をよろしくお願い申し上げます。

2 ーランベス会議を通してー

本年7月26日（火）～8月8日（月）、当初の予定より4年遅れでしたが、第15回目となるランベス会議（全聖公会主教会議）が、「神の世界のための神の教会」をテーマに、カンタベリー大聖堂、ケント大学を主会場として開催され、

「宣教と福音伝道（Mission and Evangelism）」

「セーフ・チャーチ（Safe Church）」

「聖公会のアイデンティティ（Anglican Identity）」

「和解（Reconciliation）」

「人間の尊厳（Human Dignity）」

「環境と持続可能な開発（The Environment and Sustainable Development）」

「キリスト者の一致（Christian Unity）」

「宗教間関係（Inter faith Relations）」

「弟子であること（Discipleship）」

「科学と信仰（Science and Faith）」

の十の項目からなる「ランベスコールズ（呼びかけ）」が出されました。

来年2月のACC-18での確認後、正式版が出される予定ですので現時点では暫定版となりますが、管区事務所より各教区、教役者に送られていますのでご覧いただけますならと思います。

コールズの何れも大切であることは言うまでもありません。また、大切なことはこれを見聞きして終えるのではなしに、寧ろこれらを受け、学び合うことを通して、私たち教区、教会の中で伝え広め、形や行動に繋げていく始まりとしたいと思います。

今日は一つ一つを細かに説明する時間はありませんが、いずれもが神様からの授かりものであるいのちに関わるものとして大切に、また真摯に向き合いたく思います。

私たちは洗礼を授かりクリスチャン、キリスト教信者になりましたが、イエス様とともに歩み、そしてイエス様の働き人となるべくイエス様から弟子として招かれ、お召しをいただいていることに一層心を注ぎたいと切望します。

依然としてコロナウイルス感染症の不安が拭えませんが、2020年以来、各教会・礼拝堂では厳しい状況の中に在りながらも、礼拝や牧会、種々の働きを巡り、配慮や工夫を重ね、継続しておられることへ感謝を申し上げます。

これ迄にも申し上げてきたことですが、コロナウイルス感染症のみならず、依然としていのちを傷つけたり、壊したりする動きは絶えません。ことに武力や抑圧によって、いのちが否定され傷つけられている地域や国々の人々が速やかに解放され、癒され、回復されますように祈ります。いのちを尊ぶことに関わる課題として、また私たちが信仰という神様への応答として向き合わねばならない課題は「ランベスコールズ」にも触れるように多岐にわたりますが、いのちを否定したり、傷つけたりすることは神様の創造の御業に抗うことであり、キリストの教会として容認はできません。神様からの尊い、掛け替えのない授かりものであるいのちを守り合うために、私たちに主から託されているものを探り当て

るべくは祈り、学び合い、働き続けてまいります。

3 ー新たな働きー

現在、複数の教会で「こども食堂」「フードパントリー」「学童保育」「ディサービス」等、貧困や食に関わる働きが始まり、あるいは続けられています。これ以外にも野宿生活者支援の働きや、地域のご高齢の方々への働きかけなど形の異なる働きは種々ありますが、地域の声に心を傾け、地域の「ために」「ともに」「向かって」という教会に託されている宣教の使命が一層形深められていきますよう、また教区と関わりのある社会福祉等の諸施設の働きを覚えて、祝福を祈り、支えてまいりたいと思います。教会が地域社会とそこに住まい、働く方がたとどのような接点を作っていくか？という宣教 VISION を検討し、実現へ向かっていくというパリッシュの在りようを再検討し、時には変えられてゆくことが、「再編成＝刷新・リバイバル」に繋がるものであると思います。キリストを頭にいただいているキリストの教会と、その教会である私たち一人一人に授かっている使命に仕えていくことを感謝、喜びにしていまいりたいと思います。地域社会、域の人びととの関わり、繋がりの中から、またそれぞれの地域に暮らす人びとの生活の視座から見えてくる宣教課題は必ずあります。そして、教会が地域とどのような接点を作っていくかが各々の宣教ビジョンを見出すことにもなります。神様の働きとみ旨に参与するために教区全体の諸制度（資産、収益、分担金、規程など）の見直しへ向けて動き始めていただいておりますが、殊に財政の働き、役割は、教区、教会の働きを強めていくものであり、その働きは主イエスからの委託が礎になっています。また、教区費分担金に付きましては、算出方法の単なる見直しだけでは遠くないうちに行き詰まる可能性は予想できますので、財政委員会の枠や責任範囲を超える改革が必要なことから改革のための、例えば特別な委員会などを期限付きで起こしていきたいと思っております。

未だ先が見え難くはありますが、ポスト・コロナを視野に教会の在り方の模索も必須です。キリストを頭とするキリストの教会には、何のために、誰のためにという「教会に託されている働き」があり、教会はその宣教 VISION のために財産をどう使っていくか、動かしていくかを考えていく必要があるはずで

そこで、先般もお願いしましたように各個教会の在りよう、働きを上意下達式ではなく、各教会・会衆がモデルとなっていくロードマップ（教会の在り方や働き）の作成を引き続き進めていただきたいと思います。一つ一つの教会がモデルになり、私たちの教会ではこういうミッションを果たすということを探っていただきたく、そのために各教会・会衆の課題や可能性を一緒に考えてまいります。

食、貧困、教育、環境の問題など様々な課題がありますが、「神様からの命」という視点に立ち啓発、「共育」を培っていくことが信仰上大切なことであり、現実を見据えた意識変革の必要性を痛感しています。

また、「教区規則」の見直しや整備、「教役者給与規程」の作成、また行動や生活を縛り、制限することが目的ではなく、教役者が安心して働くことができるように、信徒の方がたが安心して教会生活を送ることができるために「倫理規程」の作成も現在進めております。

4 ー北関東教区との宣教協働ー

「新教区設立」に向けては、当然ながら未知のことへの不安や困難、戸惑いも伴いますし、コロナウイルス感染症により十分な伝達ができずにいることは否めませんが、9月23日（金）には「新教区設立説明懇談会」を対面で開催でき、その中、北関東教区常置委員長矢萩栄司司祭から話を伺えましたことは大きな感謝でした。「神様の働きの器」として活力が与えられることを祈り合いたいと思います。聖霊という神様の息吹は吹き続け、動き続けています。私たちは、その息吹に与りながら、丁寧な動きを培っていくことができるよう祈ります。また、この降臨

節にも、両教区全教役者執筆による「み言葉と歩む降臨節から降誕節」を作り広く活用されていますことは大きな喜び、また感謝です。

5 ー最後にー

9月3日には、長きに亘り牛込の地での働きを続けてこられた牛込聖公会聖バルナバ教会の聖堂聖別解除が行われました。先人、先達たちの信仰に根差した献身への深い感謝とともに、受け継がれてきた霊性は場所を超えて受け継いでいきたく思います。

10月1日には藤田誠聖職候補生が、東京教区の7人目の執事として按手されました。公会の執事としての尊い務めに勤まれますよう、主の御恩寵を祈ります。

2023年に東京教区は教区成立100年を迎えます。これまでを感謝し、これからを祈りたいと思いますが、当日だけの一過性のようなお祝い事で終わらせたいとは思いません。コロナウイルス感染症のことを考えますと、かつての教区フェスティバルのような催しの開催には慎重でありたいと思います。但し、何かしらの形での感謝記念礼拝は必要ですので準備委員会の立ち上げを致します。また、事前から全ての教会・礼拝堂・信徒・教役者での共通の祈りを継続的に捧げ、祈りの繋がりの中に覚えたいと思います。この時を契機に、北関東教区との協働も視野に入れながら、新しい宣教の歩みのための骨組みを検討し、教区が新たになっていく始まりの時としてまいります。1996年第80（定期）教会で承認されました「日本聖公会東京教区宣教方針」の精神を大切にしつつ、その振返りと新たなステートメントを考えてまいります。

「神とキリストの恵みによってこそ成し得る Hospitality には様々な形はあるが、教会はこの Hospitality を外に向けてこそ力を発揮し得る。しかし同時に、それを妨げるほえたける獅子の力（悪魔の業、自己利益、他人操作、個人主義、貪欲など）と闘い、福音宣教に勤しみ、キリストに在って聖霊の力を受けてこの世で生きる。

私たちは忙しい時、心が乱れている時、神様を横に置きがちになるが、神様の飢え、渇きに気付くことの大切さがある」とのランベス会議でのジャスティン・ウェルビー大主教の言葉を添えます。

「いのちを守り合い、支え合う」働きを心に刻み、宣教の働きの軸とし、例え小さくても具体的な働き、動きを生み出すことを実践して参ります。共に祈り求めてまいりましょう。ご清聴、ありがとうございます。